

東久留米市立南中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・文章を書くことが苦手な生徒がいる。	・単元ごとに短い作文を書き、文章を書くことに対する抵抗感を減らす。	○書く内容について十分に準備をさせたいうえで、200字の作文を10分程で書けるようにする。
	・グループ活動では発言できるが、大勢の前で話すことに抵抗感をもっている生徒がいる。	・学期ごとにテーマの異なるスピーチを実施する。 ・ペアでの練習などを重ね、論旨・声量・抑揚などについて、生徒同士でも評価し合う。	◎3分程度のスピーチを実施し、原稿を見ずに自分の言葉で話すことができる生徒が80%以上になることを目指す。（各学期1回以上）
社会	・世界の諸地域の特色を自然や地域的特色に基づいて考えることができない生徒がいる。	・雨温図などの資料の読み取りや地図帳から地形などの特徴を読み取る活動を取り入れる。	○80%以上の生徒がワークシートや白地図の作業ができるようにする。
	・歴史的分野における基本用語の定着が不足している生徒がいる。	・授業で単元ごとに小テストを実施する。 ・ノートを活用した復習の指導を行う。	●小テストで正答率を60%にする。 ○ノート点検を月に1回程度行い確認する。
数学	・分数や小数を含んだ計算や計算順序に苦手意識をもつ生徒がいる。	・「解く力」の問題の中に算数の振り返り問題を入れることにより、既習事項の定着を図る。	●「解く力」の結果から定着度合いを確認する。正答率80%以上を目指す。
	・正負の数の計算に自信がもてない生徒がおり、計算力の定着に個人差が見られる。	・基本的な計算を振り返る時間を授業開始時に作り、不安を解消させ計算力の向上を図る。	○計算力を確認するプリントを週末に配布し、月曜日に確認する。正答率70%以上を目指す。
理科	・科学的な事物・現象について、理論的に考えることを面倒だと思う生徒が見られる。	・科学的に考え、解決するトレーニングを繰り返し練習する。	◎毎月、簡単な思考練習を実施する。
音楽	・音楽から感じ取ったことを言葉にして話したり、文章にしたりする力（作文力）に個人差がある。	・ワークシートの発問を工夫し、個人の考えや思いを記入後に、ペアや小グループ、学級全体での発表や話し合い活動へ共有の場を広げていく。	○表現活動に思いや意図をもち、表現する機会を設け、生徒50%以上が音楽の良さを味わうことを目指す。
美術	・絵を描くことへの苦手意識が、美術全般への抵抗につながっている生徒がいる。	・抽象画、写真、コラージュなど様々な技法を取り入れ、表現の楽しさを感じさせる。	○絵を描く課題でも授業参加者全員が作品を提出できるようにする。
	・感覚的なものを言語化することが苦手な生徒がいる。	・作品を言葉で描写する活動を取り入れる。	◎2ヶ月に1回は、作品を言葉で描写する時間を設ける。

保健 体育	・学習の内容を理解することに個人差がある。	・学習カードを活用して、知識の理解を定着させる。	○学習カードの記入状況や評価テストを実施して検証し、運動の特性をおおむね理解できるB評価の生徒が、80%越えることを目指す。
	・体を自分の思い通りに動かし活動することが難しい生徒がいる。	・お手本を見せたり、図や映像を用いて理解させたりする。	○運動の特性を理解できるB評価の生徒が、80%越えることを目指す。
技 術	・ものづくり(作業)への興味・関心は高いが、設計・計画に関する理解ができていない生徒もいる。	・設計・計画の確認事項をまとめたプリントを用意し、各自に確認させることでミスを減らす。	○放課後に時間を設定するなどして、未完成の生徒がいないようにする。
	・食生活に関しては、多くの生徒が興味・関心をもっているが知識を定着させる時間が少ない。	・基本的な知識内容については、小テストで定着させていく。	○小テストを定期的に行い、達成度を確認し、半数以上の生徒が70%以上を取れるようにする。
家 庭	・関心は高いが、生活経験が少ないので食品と調理法を結び付けることができにくい生徒もいる。	・調理技能の定着のために、課題を設定して家庭での実践の機会を増やす。	○各自生活の中での課題を見付けレポート提出、おおむね良好のB評価の生徒80%以上を目指す。
	・単語の音と文字の一致が不十分のため、読めない、読めるけど書けない、という生徒が多い。	・様々な形態で音読活動を行い、単語の音と文字の一致の定着を図っていく。	●発音、速さなどを評価基準にした音読テストを定期的に行い、大多数の生徒の80%達成を目指す。
外 国 語	・英語を話すことに抵抗感のある生徒が多く、即興でやりとりする力、スピーチ力の育成が課題である。	・各Unitごとにスピーキングテストを実施する。場面設定のある言語活動も多く行い練習の機会を増やす。	◎流ちょうさ、正確さ、語彙使用などを評価基準にした話すテストを行い半数の生徒の80%達成を目指す。
	・発問に対して、自らの考えを表現することが苦手な生徒がいる。	・ワークシートの活用やグループ活動など通して、自分の考えを表現する機会を多くする。	○ワークシートや授業観察で評価する。80%以上の生徒が自分の考えを表現できることを目指す。
科特 別の 道徳 教 育	・自分の考えをまとめ、伝えることが苦手な生徒がいる。	・何のために行うのか目的意識をもたせ、グループ討議の中で意見を伝える場を設ける。 ・新聞作成や発表では、見る人、聞く人を意識したまとめになるよう、助言する。	○全員の生徒が、発表する機会を設ける。